

三原市長期総合計画基本計画（案）

（概要版）

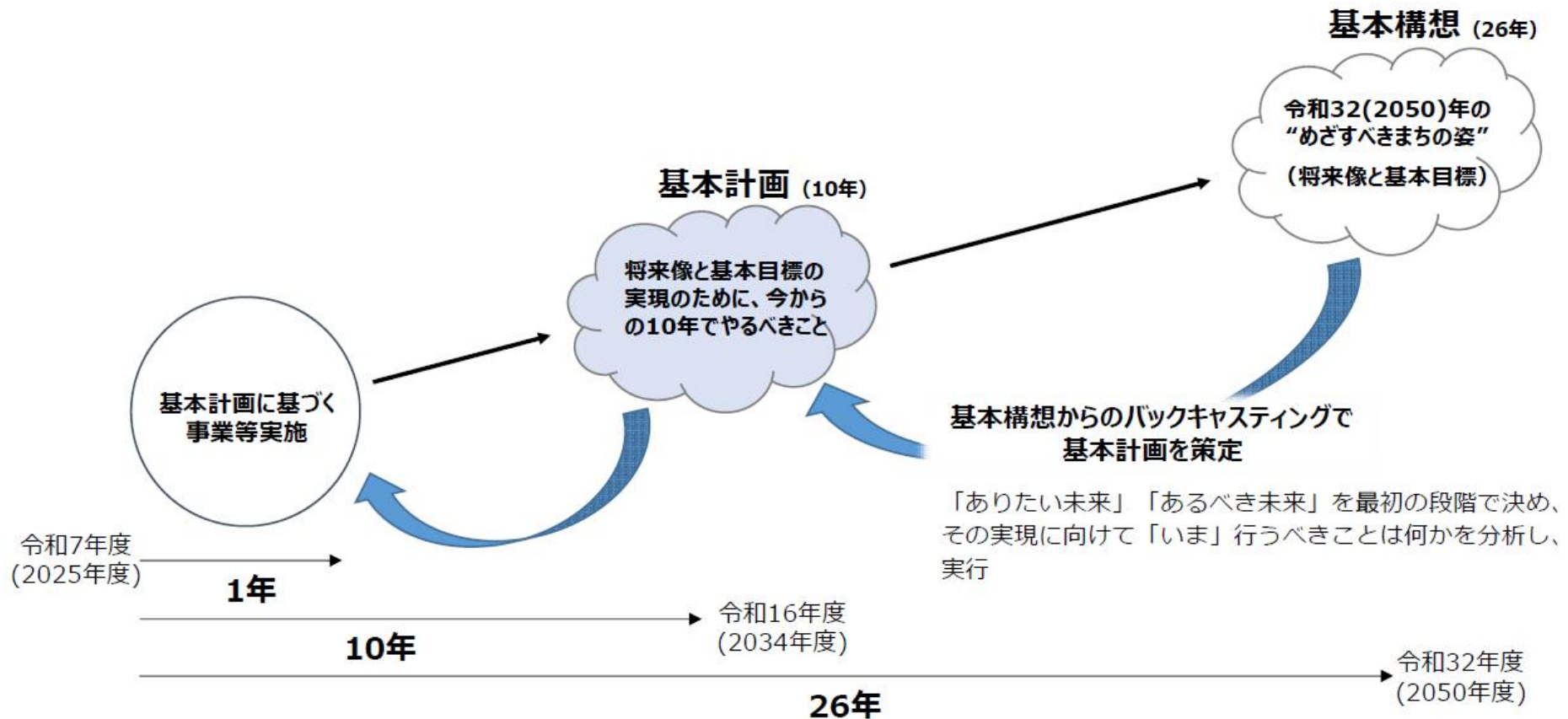
令和7(2025)年2月

三原市

策定の趣旨

- 三原市は、令和6(2024)年6月に、26年後のめざすべきまちの姿（将来像と基本目標）を示す、基本構想を策定しました。基本構想では、5つのめざすべきまちの姿を掲げるとともに、市民の幸福感を最大化することを念頭に市政に携わり、市民、事業者、団体と力を合わせてまちづくりを進めていく姿勢を定めました。
- 基本計画は、基本構想を実現するための、施策の基本的方向と体系を示すものです。めざすべきまちの姿を実現するために、「今、行政は何を行うべきか」「市民や事業者、団体とともにできることは何か」をバックキャストिंग(※1)の手法を用いて考え、令和16(2034)年までの10年間で取り組むべきことをまとめました。
- 長期的な展望を持ち、「ありたい未来」「あるべき未来」のために今やらなければならないことを効果的に実行できるよう、計画の進捗を管理します。

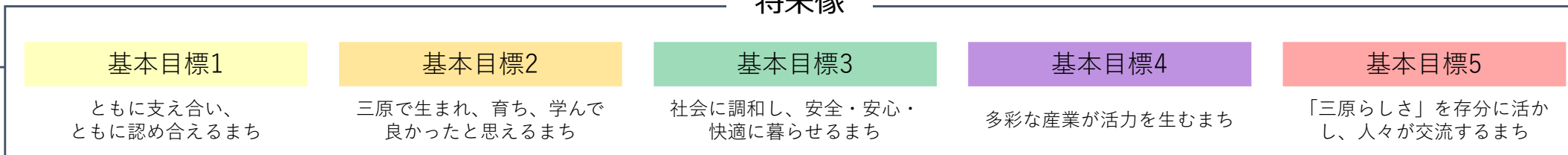
※1バックキャストिंग：目標となる将来の理想の姿を想定し、その姿から現在を振り返り、今すべきことを定める考え方



施策の体系

基本構想で定めた基本目標1から5に対し、有効な施策が紐付きます。
「計画の実現に向けて」は、各施策を推進するための重要な考え方です。

将来像



基本目標1			基本目標3			基本目標4		
1-1	人権、男女共同参画	人権教育・啓発の推進 男女共同参画社会の形成	3-1	健康、医療	健康づくりの推進 医療体制の維持	4-1	起業	起業の支援
1-2	市民活動	地域づくり活動の活性化 市民協働のまちづくりの推進	3-2	福祉、介護	地域共生社会の推進 長寿社会対策の推進 障害者福祉の充実 社会保障制度の適正な運営	4-2	商工業、サービス業	商工業・サービス業の振興
1-3	国際化・多文化共生	国際化・多文化共生の推進	3-3	防災・減災	災害対応力の強化 災害に強いまちの構築	4-3	農林水産業	農林水産業の担い手育成と生産振興 農林水産基盤の保全と長寿命化
基本目標2			3-4	生活の安全安心	消防・救急体制の整備 防犯活動・交通安全対策の推進 消費者・生活者の安心の確保	基本目標5		
2-1	子ども・子育て	子ども・子育て支援の充実	3-5	環境	環境保全と脱炭素の推進 循環型社会の形成	5-1	移住・関係人口	移住の促進、関係人口の創出
2-2	学校・就学前教育	学校教育・就学前教育の充実 教育環境の整備・充実	3-6	生活基盤	計画的なまちづくりの推進 快適で安全な道路網の形成 都市基盤の保全・整備 安全・安心な水の安定供給 汚水の適正処理 快適で安全な住まいづくり 持続可能な地域公共交通網の形成	5-2	観光	観光の振興
2-3	生涯学習、文化、スポーツ	生涯学習の振興 青少年の健全育成 文化・芸術の振興 スポーツの推進				5-3	歴史、文化財	歴史・文化財の保存・活用
						5-4	空港、港湾	空港・港湾の活用
						5-5	中心市街地	中心市街地の活性化

計画の実現に向けて

6-1	行財政運営	適正・効果的な行政運営の推進 適正な財政運営の推進
6-2	デジタル化	デジタル化の推進
6-3	情報発信	戦略的・効果的な情報発信

基本目標 1 とともに支え合い、ともに認め合えるまち

人口減少や少子高齢化、価値観の多様化などを鑑み、これまでの仕組みやサービスでは対応しきれない課題が増加することから、支え合い、理解し合いながら様々な課題に向き合っていく。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
人権教育・啓発の推進	全ての市民や事業者が、「人権尊重」を自分の事として捉え、相手を理解して、尊重し、思いやり、差別しないまちになっている。
男女共同参画社会の形成	お互いの人権を尊重し、性の多様性の理解が進み、社会的責任を分かち合い、性別に関わりなく個性と能力を十分に発揮できる社会に近づいている。
地域づくり活動の活性化	市民が支え合い、認め合いながら、安心していきいきと暮らしていくために、将来に向けてより多くの市民が地域づくり活動に取り組んでいる。
市民協働のまちづくりの推進	多様な主体が連携し、それぞれの強みを活かした活動を行い、協働のまちづくりの取組が活発化している。
国際化・多文化共生の推進	外国籍市民と日本人市民のコミュニケーションが円滑になり、外国籍市民が日常生活の困り事を解決できている。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値（10年後）
各種審議会等に占める女性委員の割合	30.2% (令和6年度)	40%
地域経営に取り組んでいる組織数	19団体 (令和6年3月)	40団体
市民協働のまちづくり事業を実施した団体数	3団体 (令和6年度)	7団体
地域の日本語教室に参加した外国籍市民のうち、基本的な日本語が理解できるようになった人数	(今後調査)	(上昇)

施策の内容

基本目標 2 三原で生まれ、育ち、学んで良かったと思えるまち

希望する人々が三原で子どもを産み育て、生まれてきた子どもたちが健やかに育ち、三原で学び、成長し続けることに向け、妊娠から出産・子育てに関する支援を大切にし、学びと活躍の場を持続させる。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
子ども・子育て支援の充実	希望する人が子どもを生み育て、生まれた子どもたちが健やかに育つ環境が整っている。
学校教育・就学前教育の充実	「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」を育成することにより、児童生徒の生きる力が育まれている。
教育環境の整備・充実	教育の情報化に対応したICT機器が整備され、児童生徒が効果的に教育を受け、学校施設において安全で快適な環境で学習している。
生涯学習の振興	生涯学習を希望する人が、希望する活動をする事ができている。
青少年の健全育成	学校・家庭・地域の連携が深まり、青少年が交流・体験活動等を通じて、自分たちの住む場所への愛着を持ち、地域貢献の意識が高まっている。
文化・芸術の振興	市民が文化芸術の鑑賞・発表を楽しんでいる。
スポーツの推進	スポーツに親しんでいる市民が増えている。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値 (10年後)	指標名	現状値	目標値 (10年後)
待機児童数（保育所・認定こども園（長時間利用））	0人 (令和6年3月)	0人	鑑賞機会の入場者数	3,820人 (令和5年度)	3,642人
全国平均に対する学力定着の状況	小学校 101.4% 中学校 95.9% (令和6年度)	小学校 101% 中学校 101%	ICT端末の整備率	100% (令和6年5月)	100%
将来の夢や目標を持っている生徒の割合	66.0% (令和6年度)	70%	公共スポーツ施設の利用者数	412,362人 (令和5年度)	422,000人

基本目標 3 社会に調和し、安全・安心・快適に暮らせるまち

住み慣れたまちで健康に住み続けるために、その根幹となる医療・介護などの支援が行き届き、社会インフラの整備、そして命を守る意識・体制の強化をもって、安全・安心・快適な暮らしを保っていく。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
健康づくりの推進	健康づくりに取り組み、健康寿命が延伸している市民が増えている。
医療体制の維持	周産期・小児・救急・在宅医療等の体制が維持され、必要な医療サービスを受けることができる。
地域共生社会の推進	地域福祉を支える人材育成や地域づくりが推進され、多機関が連携して課題解決に取り組む包括的な支援体制が整い、市民が生活課題を抱え込むことがなくなっている。
長寿社会対策の推進	高齢者が、生きがいを感じながら身体状況や価値観に応じて自分らしく活躍できている。
障害者福祉の充実	相談やサービスなどの支援体制が充実し、障害のある人の権利が守られ、療育や教育、就労、スポーツ、文化芸術活動などの場で能力を発揮し、安心して生活できている。
社会保障制度の適正な運営	社会保障制度が健全に運営され、市民の生活が守られている。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値 (10年後)	指標名	現状値	目標値 (10年後)
1回30分程度の運動を週2回、1年以上している人の割合	41.3% (令和5年度)	50.0%	平均寿命の延伸を上回る健康寿命の延伸	男性 -0.59年 女性 -0.22年 (令和4年度)	0以上
休日・夜間の一次救急医療体制の確保率	100% (令和5年度)	100%	地域生活支援拠点事業所数	8か所 (令和6年3月)	11か所
支援会議による支援者の課題解決率	93% (令和5年度)	100%	国民健康保険税の現年度分収入率	95.2% (令和5年度)	96.1%

施策の内容

基本目標 3 社会に調和し、安全・安心・快適に暮らせるまち

住み慣れたまちで健康に住み続けるために、その根幹となる医療・介護などの支援が行き届き、社会インフラの整備、そして命を守る意識・体制の強化をもって、安全・安心・快適な暮らしを保っていく。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
災害対応力の強化	災害時には、市民一人ひとりが避難行動をとり、命を守るという考えが浸透しています。
災害に強いまちの構築	官民の維持管理体制が構築され、災害に強く、持続可能な社会インフラの整備が進んでいる。
消防・救急体制の整備	消防・救急活動が迅速・確実に行われ、市民の安全と安心が守られている。
防犯活動・交通安全対策の推進	重要犯罪や重要窃盗犯を中心とする犯罪件数や人身事故を中心に交通事故件数が減少している。
消費者・生活者の安心の確保	消費者トラブルや生活の心配事がスムーズに解決するなど、安心して生活できている。
環境保全と脱炭素の推進	市全体で地球温暖化防止の取組が進み、ごみのポイ捨てをする人が減っている。
循環型社会の形成	ごみの排出から処理までの各段階で、市民・事業者・市が3Rの考えを重視した行動を取ることで、ごみの減量化と再資源化が進んでいる。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値 (10年後)	指標名	現状値	目標値 (10年後)
自主防災組織の防災訓練実施率	69% (令和5年度)	80%	交通事故発生件数に占める高齢運転者の割合	30.7% (令和5年)	30.7%以下
市管理河川の整備完了箇所数 (令和4年度以降の累計)	25か所 (令和6年8月)	50か所	二酸化炭素排出量の削減率 (2013年度比)	29.5% (令和3年度)	60%
119番通報から30分以内に鎮火した建物火災率	33% (令和5年)	44%	市民一人当たりの家庭ごみ排出量	518g/人日 (令和5年度)	518g/人日以下

基本目標 3 社会に調和し、安全・安心・快適に暮らせるまち

住み慣れたまちで健康に住み続けるために、その根幹となる医療・介護などの支援が行き届き、社会インフラの整備、そして命を守る意識・体制の強化をもって、安全・安心・快適な暮らしを保っていく。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
計画的なまちづくりの推進	日常生活に必要な都市機能や居住が市街地の生活拠点に集約され、市街地とその他各地域拠点が交通ネットワークで結ばれることで、コンパクトなまちの形成が進んでいる。
快適で安全な道路網の形成	道路網の計画的な整備・維持・管理・大規模修繕・更新により、歩行者・自転車・自動車が安心して通行できる環境が形成されている。
都市基盤の保全・整備	市民ニーズに合った都市基盤・都市施設の整備と計画的・効率的な施設配置により、良好な都市環境が形成され、市民・事業者の円滑な都市活動が行われている。
安全・安心な水の安定供給	老朽管路の更新が進められる中で、安全、安心で良質な水が適切な料金で安定供給されている。
汚水の適正処理	下水道や合併処理浄化槽の利用により、衛生的な生活環境や河川・海域の水質が保全されている。
快適で安全な住まいづくり	地域における良好な住環境が確保され、市民が安全な住宅で生活している。
持続可能な地域公共交通網の形成	市民が、地域公共交通を積極的に利用し、日常生活に必要な移動を安全・安心・快適に行っている。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値 (10年後)	指標名	現状値	目標値 (10年後)
居住誘導区域内の人口割合	45.1% (令和6年3月)	47.5%	公共下水道整備進捗率	90.2% (令和6年3月)	100%
市道の改良率	57.5% (令和6年3月)	58.6%	特定空家等の除却件数（累計）	71件 (令和5年度)	146件
東本通土地区画整理事業区域内の人口	1,650人 (令和6年3月)	2,149人	路線バスと地域コミュニティ交通の利用者数	930,465人 (令和5年度)	930,465人以上

基本目標 4 多彩な産業が活力を生むまち

若い世代や多様な人材に選ばれるために、多様な産業の展開や働きやすい職場環境づくりの取組により、「ここで働きたい」「また戻って来たい」と働く人を呼び込み、まちの活力を上げていく。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
起業の支援	起業家が生まれる風土が醸成され、市内で新しい事業が増え、経済の活力が増している。
商工業・サービス業の振興	地元企業や新たな立地企業が、地域経済の重要な担い手として、地域の雇用や経済活動に大きく貢献している。
農林水産業の担い手育成と生産振興	農林水産業を支える担い手が確保され、農林水産物の生産額が維持・増加されている。
農林水産基盤の保全と長寿命化	田畑・水路などの農林水産基盤や森林の公益的・多面的機能が維持されている。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値（10年後）
創業支援等事業者の支援を受けた創業者の延べ人数	95人 (令和4年度)	122人
事業承継マッチング件数	(今後調査)	1件
農業産出額	96.5億円 (令和4年)	109.5億円
有害鳥獣による農作物の被害額	9,268千円 (令和5年度)	4,634千円
多面的機能支払事業の取組面積	2,221ha (令和5年度)	2,400ha

基本目標5 「三原らしさ」を存分に活かし、人々が交流するまち

三原の地には、素晴らしい自然や文化、都市機能などの「三原らしさ」があり、それらの価値を高め、普遍的な資源として活かしていくことで、人々を呼び込み、活気あるまちをめざしていく。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
移住の促進、関係人口の創出	三原に住みたい人・移り住む人・関わりたい（応援・来訪・貢献）人が増加している。
観光の振興	瀬戸内の食や自然、祭りや歴史文化など、「三原ならではの」魅力を体験して三原を好きになり、また三原を訪れる人が増えている。
歴史・文化財の保存・活用	みはら資源の価値を地域全体で認め、継承していくまちとなっている。
空港・港湾の活用	空港・港湾の運営管理者をはじめ、周辺に立地する事業者との連携により、空港・港湾施設と市内との間で人や物の流れが増加している。
中心市街地の活性化	空き店舗が減り、新しい商業・サービス・飲食などの店舗の立地や歩行者回遊空間の整備が進み、街のにぎわいが増している。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値（10年後）
移住世帯数	59世帯 (令和5年度)	100世帯
三原4大祭りへの来場者数	50万人 (令和5年度)	60万人
指定文化財数	298件 (令和6年3月)	320件
三原内港を活用したイベントの来場者数	19,881人 (令和5年度)	52,000人
歩行者・自転車通行量（平日）	19,584人 (令和5年度)	24,286人

計画の実現に向けて

基本目標 1 から 5 の各施策を推進するための重要な考え方。

施策名	施策がめざす姿、10年後の三原市の姿
適正・効果的な行政運営の推進	社会の要請に応えた果敢なチャレンジにより、長期総合計画の各施策が順調に成果をあげ、“めざすべきまちの姿”の実現が着実に近づいている。
適正な財政運営の推進	将来にわたって持続可能な行政経営を支え、各施策における“めざすべきまちの姿”の実現に向けた健全な財政が維持されている。
デジタル化の推進	市民や事業者などの市役所利用者に市役所へ行かなくても申請や手続きが終えられるという選択肢がある。
戦略的・効果的な情報発信	市民が市政情報等を把握し、地域への愛着・誇りを持ち、官民一体で情報発信を行うことで、市外の人から、行きたい、住みたい、応援したいまちとして認知されている。

— 主な成果指標 —

指標名	現状値	目標値（10年後）
市税の収入率	98.3% (令和5年度)	98.7%
自主財源比率	38.2% (令和5年度)	39.0%
公共施設の延床面積削減率（対H26年度比）	5.9% (令和6年3月)	15.0%
市役所に行かなくても電子申請などの手続きができる割合	20.3% (令和6年11月)	90.0%
デジタル技術を活用した実装事業数（累計）	34事業 (令和6年9月)	65事業
ふるさと納税寄附件数	17,292件 (令和5年度)	62,000件